「大麻の合法化について」

№

大麻は多幸感をもたらす作用のため麻薬と分類され、所持、譲り渡し、譲り受け、喫煙するのが犯罪と見られて禁止されている国が多い。しかし、合法化されていた国はいくつかあったが、最近世界中で解禁され始めてきた。

　合法化を反対する側は、中毒性がある薬物であり、「踏み石論」、ゲートウェイドラッグと言うことで、一度大麻を始めたらほかの麻薬に手を出し始める、体に有害性がある、社会的にそんな薬物を受け入れては若い者たちに悪影響がある、などと議論を出している。賛成側は、合法化しコントロールしたほうが若者に届かない、中毒性と有害性はタバコとアルコール以下、禁止されてもやりたい人は不法に手を出す、合法化されたら経済に良い影響をする、などと言っている。

　私は大麻を合法化するべきだと思う。一案大きな理由は、コントロールしたほうが若者

に大麻を与えない一番安全な方法だと思うからだ。禁止されているからこそやみ市場で売られ、そしてやみ商人は制御されていないから未成年者にも売る。そしてやみ市場にさらせられ、他の悪い麻薬にも手をだしはじめる。

ちゃんとコントロールしないとこれは止められないと思う。中毒性は、コーヒーと同じぐらいで、アルコールよりは低く、タバコのほうが極限に中毒性が高い。体の被害も長年続ければ悪影響があるのは間違いない、だがそれもアルコールとタバコも同じだ。だがなぜ、アルコールとタバコは制御されているのに大麻はコカインやヘロインのような扱いにされるのは分からない。

　これ以外にも、もう大麻が解禁された国は良い結果をだしている。ポルトガルでは、２００１年から大麻が非犯罪化で、未成年の違法麻薬使用が減少。コロラドでも解禁され、私はこのパターンをカナダでも見たいと思う。